

平成 29 年度 看護管理者・中堅看護師交流研修会 アンケート結果



日時 : 10月21日(土) 13:30~16:00
内容 : 大切な人材を活かすためのキャリア支援
講師 : 岩手医科大学看護学部 共通基盤看護学講座
特任教授 秋山 智弥 氏
参加者 : 38名 (会員35名 非会員3名)

< アンケート結果 回答者 : 35名 回答率 : 92% >

1. 職位 :

施設のトップマネジャー	: 1名
副看護部長・またはその職位に属す	: 3名
看護師長または1看護単位の管理監督責任者	: 17名
主任看護師またはその職位に属す	: 8名
看護師スタッフ	: 5名
無回答	: 1名

2. 研修会の感想

非常によかった : 24名

- ・同じ悩みを共有できて、いろいろ試したいと思った。
- ・キャリア支援への解決方法が具体的にできたのがよかった。
- ・講義は、看護の基本、今までの自分の看護を振り返る機会となった。
- ・民間、公立病院の中間管理職の方々と情報交換ができ、看護師の出向等のヒントになった。
- ・人材育成・キャリア支援につなげるヒントになった。

よかった : 9名

- ・ワールドカフェ形式の意見交換がとてもよかった。
- ・看護の本質を振り返ることができた。スタッフに関心をもつことが大切と思った。
- ・後半の院内ラダーやキャリア支援についてもう少し詳しく聞きたかった。

期待外れ : 1名

無回答 : 1名

3. 今回の研修を終えて、

1) キャリア支援についてどのような課題がみつかったか。

- ・やりたくない時やキャリアアップしなくても良いと思っている人、やりたくてもできない人への支援について、やってもらう役割についての工夫が必要である。
- ・普段の看護のすごいことをしていることに気づかせる。

- ・生き生きと働き続けるためにはモチベーションが必要、モチベーションに刺激を与え続けることが必要である。
- ・他施設との人事交流を積極的取り入れるシステム作りも大事と感じた。
- ・ナラティブの機会をキャリア支援にどのように組み込むか、プログラムの作成が課題である。
- ・看護を楽しみと思えるような環境作りを自分の力とスタッフの力で作っていく(学習会、事例検討会、デスクカンファレンスで看取り事例振り返りよかったことをみつける)。

2) どのような取り組みや工夫ができると思うか。

- ・語る場をもうける。
- ・語る場をつくり、役割を發揮してもらおう。
- ・スタッフが何を目標にしているのか(特に若手)を引き出すようにして、モチベーションを上げていきたい。
- ・看護の力で、どう変わったかを伝え合う機会をもつ。
- ・語り合いがお互いを知り、関心をもつことにつながり、感性を磨くことになる。
- ・面談以外にも日々の関わりの中から、気づきを促す工夫を実践する。
- ・施設間の人事交流のシステム作りのヒントが深める。
- ・中高年看護師のキャリアパス作成
- ・育児中の職員に制度をどう活用してもらおう。
- ・地域と連携したキャリア開発(訪・看等)を検討
- ・師長とのPNSをラダーに取り入れる。
- ・人事交流も新たな気づきを得るためには大切である。

4. 今後、企画してほしい内容

- ・若手スタッフが認定看護師の業務内容を知るなど、やりがい、やりたいことを見つめられるような研修
- ・管理者としての概論や役割、ケーススタディなど、新しい管理者としての方法
- ・地域医療構想における病院間の看護教育連携